

4 不登校のタイプに応じた支援

ここでは、「不安など情緒的混乱」「無気力」「あそび・非行」型に絞って、支援の方法を取り上げます。

これらの支援モデルは、あくまでも一例であり、この型の不登校すべてにあてはまるわけではありません。そのため、一人一人の子どもの状態に応じた対応が必要となってきます。



(1) 「不安など情緒的混乱」の型への支援モデル

「不安など情緒的混乱」の型では、子ども自身の心を安定させ、次の段階に進むための心の作業を見守り、時には待つという姿勢が重要になります。

子どもや保護者の不安が強いときには、相談機関（p. 47 参照）でのカウンセリングを勧めるなど、関係機関との連携をとることも必要です。

初期の対応

不登校の子どもへの初期の対応は、状態の把握が難しく、今後の見通しもつきにくい場合が多いものです。学級担任が問題を一人で抱え込まず、学年及び校内の相談体制や指導体制を充実させる中で、学校全体で対応していくことがポイントとなります。

〔家庭訪問等について〕

- ・ はっきりとした理由もなく続けて休んだら、教職員は、短時間でよいので家庭訪問をし、本人と家庭の様子を見てくるようにする。

〔登校刺激について〕

- ・ 初期の対応としては、適切な登校刺激（授業時間内でもよい）は必要である。
- ・ 原因がはっきりとつかみきれない休み始めの段階では、時々でも登校することができる状態ならば、登校への誘いをかける。
- ・ 登校刺激を続けていっても、状態の改善が見られない場合は、登校刺激で子どもを追い込まないようにする。
- ・ 身体症状（腹痛・頭痛など）が出た場合は、ゆっくり休ませ、心身の休養をとらせる。
- ・ 小学校低学年で、甘えが強く、母子分離のできていない場合、初期に教職員と保護者が協力して登校させると、短時間でかなりの子どもが登校できるようになる。ただし、分離不安が強い場合は、母子間の安定を図るような働きかけが必要となる。

〔この時期の家族への支援〕

- ・ 教職員は、保護者の不安や苦しみをよく聴き、保護者を責めたり批判したりしないで、一緒に考え、共に歩むことを伝える。

長期化したときの対応

「不安など情緒混乱」の型（神経症的不登校）の子どもの場合，学校に行きたくても行けない状態なので，子ども本人は，学校の友だちや学級担任が自分のことを忘れていないかとても気にしています。そこで，学校側に子どもに不安を与えないような配慮が必要になってきます。

〔家庭訪問等について〕

- ・ 不登校が長期化してしまったら，週に1度くらい一定の時間に家庭訪問を行う。継続して訪問することが大切であり，本人と会えないときは，手紙やメモを残すのも有効である。
- ・ 子どもと会えるときには，本人の好きなことや得意なことを一緒にしたり，楽しい話や趣味の話などをしたりする。希望があれば，学習をするのもよい。
- ・ 家庭訪問により身体症状が強くなる場合は，しばらく訪問を控える。
- ・ 本人は約束を守れなかったことに対する罪悪感が強く，守れないと学級担任に会えなくなる場合があるので，子どもの状態に対して期待するような約束をしないようにする。

〔登校刺激について〕

- ・ 登校刺激はしないようにして，子どもや保護者との信頼関係を育てていく。
- ・ 本人や保護者の悩みに十分耳を傾け，話の内容を批判したり評価したりしないで聴く。
- ・ 時には学校批判が出ることもあるが，教職員は，相手の言葉や気持ちを尊重し，全面的に受け入れる姿勢が必要である。

〔この時期の家族への支援〕

- ・ 教職員は，登校刺激を与えないよう保護者に頼み，苦しんでいる保護者の支えになるよう，訪問時あるいは月に1度くらい学校で保護者の話を聴く機会をもつようにする。また，家族間で支えあうよう依頼する。
- ・ 子どもの小さな変化を温かく見守り，徐々に家庭生活のリズムを取り戻させるように努めてもらう。



回復期の対応

ひきこもっていた子どもに、次のような様子が見られるようになったら、保護者や学級担任は、子どもの状態に合わせてながら、登校に向けて少しずつ働きかけていくようにします。

- ・ 昼夜逆転の生活リズムが少しずつ解消される。
- ・ 家族と会話するようになる。
- ・ 外に買い物に出かけるようになる。
- ・ 自分の部屋を掃除したり，身の回りを片付けたりするようになる。
- ・ 入浴，着替え，散髪など身だしなみに気をつかいたすようになる。
- ・ 学校のことを話題にしたり，学習のことを気にしたりするようになる。

〔家庭訪問等について〕

- ・ 子どもの状態に合わせて家庭訪問の回数を増やしていくようにする。また，友だちを遊びに行かせてみる。
- ・ 家庭訪問のときに宿題やプリントを届け，やりたければやってみるように勧め，提出しなくてもよいことを伝える。

〔登校刺激について〕

- ・ 登校刺激を試みる。放課後の登校や，学校行事などに顔を出してみるよう勧める。
- ・ 登校したからといって我慢して一日中いなくてもよいことや，保健室や相談室等で過ごしてもよいことを知らせる。

〔この時期の家族への支援〕

- ・ 食事に出かけるなど家族と外出する機会をもち，親子の関係を深めるよう努めてもらう。
- ・ 子どもの自己決定を一層大切にしよう努めてもらう。

